



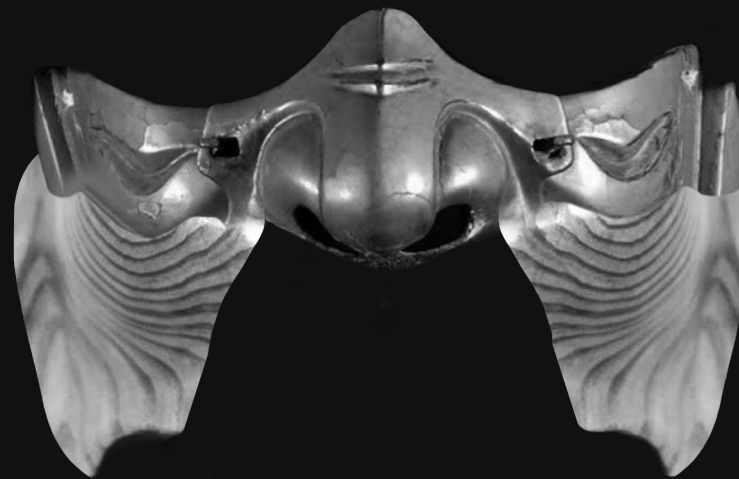


1. Mirage / 蜃気楼
2. Low High / 狼狽
3. Jin / 陣
4. Kane / 鐘
5. Tanuki / 狸
6. Gensou / 幻想
7. Shigurui / 死狂い
8. Sanzu / 三途
9. Matayume / 又夢
10. Next / 来世
11. Zantestu / 斬鉄

黄昏時起きる下町の魂
提灯が灯れば目を覚まし
髪垂らし風晒し
一流だが肩書きは流し但し
ふと懐挟む異国の話
御伽と疑うなかれ、是晴らし
瞳の奥、紅の光
見て来たもの格も桁も然り
川べり独特の空気、揺れる柳
夜風に吹かれ欠伸する蛹
ゆっくりと羽を伸ばす
漆喰の殻ごとふき飛ばす今宵
祭りの囃子百鬼夜行
弦と太鼓と笛 鳶が宿る
血が踊る、拍子は静と動
勘が獣に戻る

無言の合図で絶えず凌ぎ削り
手ぶらで闊歩、出店巡り
名人の刷る色、鮮やかに
舌鼓打つ美味に 華やかに
飾られた軒下に増す人混み
釣られたら熱気交わし肩揉み
はっ背中に気配、見せた隙
いざとなれば団子の串も武器
死に急いで何処へ行くのかね
金に眩み逝けば何の為
おいとっとけまだ見ぬ孫の土産に
とっとと失せろ鬼の来ぬ間に
腰抜かしても尻尾掴まれる
喉元過ぎても熱さで爛れる
差し詰め井の中の蛙
気安く触れてくれるな電気鯰

猫撫で声の喉笛に牙
地平線の向こうは飢饉に飢餓
瞼の裏、未だ屍の山
死んだ魚の目貪る貧しい子等
ほら、何も失う物なき者の
哀れみすら知らぬ胸に炎
冷めてる心は即座に慄く
本物の前に偽物は臍く
月夜、十五夜、詩の続きを
聞くことお勧めし兼ねる、一応
断りを入れてから進めとうござる
去る師走の宴の章
驕り昂ぶる若僧無礼極まり
座の皆の目にも余り と彼奴の刃
切先こちらに向き 血飛沫が
屏風に上手に坊主の絵を描いた





何故武士はいつも戦うのか
何故に時代に抗うのか
さあ定めは酷にからかうのか、
誰かが終わりに高笑うのか

寄らば大樹、の陰咲く花
この命、何処に捧げよう哉
主無き今、あるまじき性
潔く散る、それが充実
訪れる終止符
最期の眠り、それが休日
毎日が死神の賄い
小鳥の囀りさえ儂い
その日暮らしの生き甲斐
よりも崇高な道、魑魅とすれ違い
様に嗅ぐ甘美な香り
惑わされず翻す羽織
旗の為 身を投げ出す事も
紋の為 体を張る事も
きっと叶わぬ御時世だからこそ
其方は問う、心底

何故武士はいつも戦うのか
何故に時代に抗うのか
さあ定めは酷にからかうのか
誰かが終わりに高笑うのか

商人に騙され
町民に笑われ
農民に集られ
尚、高舞句
飯は食わねど酒場行く
罟、罟と落とし穴の飴細工
煌びやか 雅かな
賑やかな 輩には否判らぬが
行き先は闇、片足は黄泉
元の木阿弥、何処の葳草
拾い道程、阿弥陀籤並み
鞘の中、刃の反り弓形
真冬の海の網、波の畝り
真っ直ぐなものはない、と胸に
忌み嫌われる程、溢れる笑み
してその心は閉ざされた意味
やるかやられるかの二択に神は
見てるが祈りは遥かに

何故武士はいつも戦うのか
何故に時代に抗うのか
さあ定めは酷にからかうのか
誰かが終わりに高笑うのか

天下の回りもの
将軍のお膝元
天下の台所
帝の御懐

漆塗り、黒光り
黄金色の箔
杉の梁と柱
継手、仕口、無垢の侘
狂い咲き乱れ、
枝垂、簾越しに纏う
結城紬 桜吹雪
四季に粋な様
襖開き 敷居跨ぎ
皆の息が 止まり
裾が畳 擦ると
音の響き 耳に刺さり
琴の弦に心ぴんと
伸びた線がじんと
沁みるそれは
胸の極み
極の時の刻み

天下の回りもの
将軍のお膝元
天下の台所
帝の御懐

東方見聞、冒頭の
神々しい鳳凰と
宝刀の相当の高等な
攻防の蟻螂の斧
煩惱の炎、各々
此の世を放浪
方々で翻弄し
そもそも本望で候
神の髪と雫
絹と酒で澄んだ清水
家で固く守る
口で伝えられた秘密
誇り高き匠
奢り知らず技を磨き
正に鎬削り
真に長けた刃だけ残る

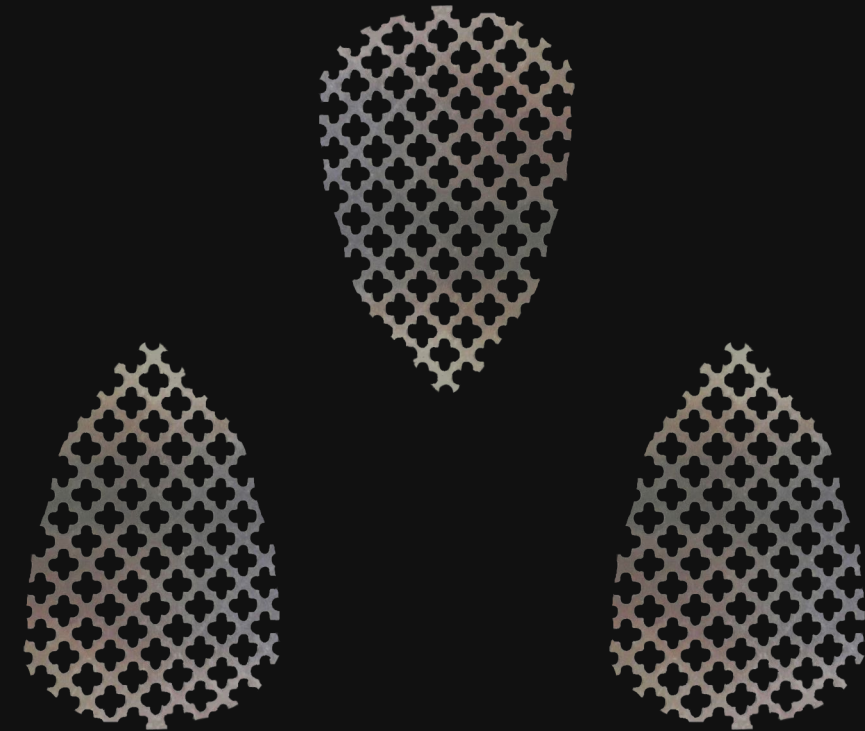
天下の回りもの
将軍のお膝元
天下の台所
帝の御懐

半端ねえ
半端ねえ
半端ねえ
半端ねえ

漆塗り、黒光り
黄金色の箔
丸み帯びた角と形
滑る光沢

手から手へ
手から手へ
手から手へ
手から手へ

天下の回りもの
将軍のお膝元
天下の台所
帝の御懐



昔々あるところに お山にタヌキがおったそうな
それが可愛いタヌキでなくて ぶくぶく太った大ダヌキ
そいつはいつも大威張り 朝晩出入りする大屋敷
それである時、タヌキがあるウサギの噂をふと耳にしたピン
なんでもそのウサギは鼻が効き、なんでも嗅ぎ当てるよと聞き
タヌキは一晚寝て閃いたポン 次の朝、ウサギを訪ねた
「ウサギさん、このお山のキノコの中には色々ありまして、
え〜珍しいモノはヒトに売ったら代わりにエサが貰えますよ
こう、ひとつ私の主人に言いつけ、儲けを山分け致しましょう」
お人好しのウサギは疑う事なく答えた
「良いですよ。私が得意とするところで、
キノコ集めに協力致しましょう。山分けなら一番公平で
後腐れなく出来ますね、では約束した証にこの紅葉の葉っぱに
手形を下さいな」
タヌキは答えた「もちろんですとも、ウチの屋敷に持ち帰りますので
次に会う時渡しましょう、なので先にキノコを集めて来てくれたら
売れるモノを分けて、話をまとめて来ますんで」
と二人は別れてウサギはお山に、跳ねて行ったが
タヌキは一方にやけながらお屋敷に帰った
取らぬキノコの茸算用、取らぬキノコの茸算用

数日後の朝、ウサギは律儀にもお屋敷に現れた
栗色の風呂敷に色取り取りのキノコ、それぞれ数えて来て見せた
タヌキの目の色は変わったが一息つき、ウサギにこう言った
「はぁウサギさん、この中で売れるのは残念ながら
半分以下ですけど、私の取り分を減らしてでも、お礼しようと思います。
なので今日のところは六分の一のキノコのお代を払います」
と、自分の財布からエサに変えられる引き換え券を出して手渡した
ウサギは訳分からずつままれた 勢いの余り返された
戸口で傾げながら住处に着いた、あの紅葉の葉はどこ行った
夜寝ながらこう呟いた、あの紅葉の葉はどこ行った

日が明けて朝の市場に出かけると見覚えのあるキノコ達
一面に並び目が飛び出るくらいの値で取り引きされていた
「ああ、しまった騙された」とウサギが気づいた所で時既に遅し
人混みの足の隙間から片手団扇のタヌキの物腰
手の平を返したかのようにどのキノコも選り取り見取りと売り出し、
ウサギは目を合わさず、お山に戻り更にキノコを掘り当てた
なぜと言えればそれはお楽しみ、風の速さで夜にお屋敷
の前で風呂敷を下ろして呼んだ
「タヌキさん、昨日はありがとう、
今日も好きなキノコを持って来ました、
今宵も取り引きいかがでしょうか」
タヌキは恐る恐る顔出したが、物を見て着替えて外に出た
途端に網にかけられて猟師の肩に担がれて彼は叫んだ
「ウサギさん、これはどう言う事です。釣って騙すのはいけませんよ」
ウサギは笑った自分の主の後をつけながら山道を駆けた
「おいタヌキどん、ウサギを舐めるなよ、キノコくらい自分で売れるのに
任せた理由はただ一つ、お前に化かされた奴らの話は
聞いても聞いても跡を絶たぬと言う事はお前は絶対懲りぬ、
悪さをこの目で確かめた上で捕まえたら、誰もこれを止めぬ」
誰がやったか流さんよう、取ったタヌキの皮算用
誰がやったか流さんよう、取ったタヌキの皮算用





出火は卯の刻、
火の粉が忽ち江戸の街包み込み
その数一万家屋、煉獄と化し
北西の風に煽られた海
煙が雨雲のように光を遮り慌てる町人
火は収まることを知らずに広がり続けて
天守閣までも飲み込んだ
丸々蜂の巣、蟻の巣突いた騒ぎに乗り込んだ
火消しの見事な仕事も実らず、
火種が火種を呼び込んだ
さあ火の手が行く手を阻む
風下の店は揃って畳む
家財一式詰め込んだ
車長持をば道に出してはならぬ
危ない危ないぞ出してはならぬ

一日遅すぎた夕立
焼け野原となった城下町、
すっからかんの御用達
犯人探し躍起になる奉行達
寄り合いは総立ち、仁王立ち
誰かが放火を見たと言い出し
それが誰だったか御構い無し
に直ちに人相書
が配られたそれを元に
お縄にかかった者は数十名
しかしことごとく不在の証明
濡れ衣乾かぬ内に御用名
「与力の弥助よお前の鋭い目は
へまをせぬ、この火附の首根っこを
とっ捕まえてくれるか」
弥助はどう応えてくれるか

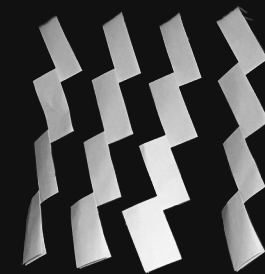
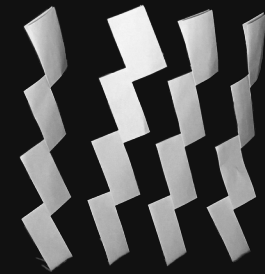


火付改方、弥助自身は引き受けたものの
殆ど自信がなかった
何故なら火事場泥棒目当てか
はたまた色恋沙汰か 何か因縁の深い仇か
この混乱を極める最中、火附がいたとしてもだ
定かですらないその時まさか
火の見櫓の早鐘、ガンガン
けたたましく地響き、弥助も
直々赴き、着くと火の粉の元、男が佇み
なんと本妙寺、寺小姓の庄之介
駆け付けた和尚も拍子抜け
火を長らく眺めて頬を染め
娑婆の空気も吸い納め

火の無い所に煙は立たぬ

御定書通りに囚われの庄之助
馬で市中を引き回された上
火焙りの刑、含め全て見せしめ
萱から頭を出した彼曰く、
「手前が燃やしたのは江戸じゃない
ただ焚き火の枝に付け火の火罪
残りは風の仕業でござい」
「ならば何故再び、火を付けたのか
更に巻き添えにして殺めた」弥助は尋ねた
庄之助「二十日前に捕まえに来れた衆と、
お仕えした坊主に申す、焦がれた身
この死狂いの人生は儚かった」
弥助は庄之助の顔が萱で
隠れるまで目を離さなかった

魂は華麗に燃ゆ
魂は華麗に燃ゆ
魂は華麗に燃ゆ



処刑場が地面の下から見えた
実にそこは上下左右も無かった
身を任せ、ただ沈んで行く
冥途の旅支度、八百里を歩く
死手の山の麓には、
曼珠沙華と曼荼羅華の
それは美しいお花畑
賽の河原まるで俵積まれた
石の側で崩れ去って踏まれた
塔を建てる、更から
一重積んで父の為
二重積んで母の為
三重で西を向き
襦ほどなる手を合わせ
逢瀬からの十月十日経って受けた生が
乳房放れ見せる仕種
父母が恋し握る小石
手足擦れてただれ
一つ、二つ、三つ、四つ
指先より出づる、血の滴が功德
ものあはれ、世は無常なり
自業自得、因果応報は避けて通れぬ道理
鏡照る日眼、鉄の杖と鞭を持って
獄の鬼が塔を打ち散らす、一つ残らず

三途の川、此岸から彼岸花
見渡せば霧の先は、千里の幅
罪の浅き者は 膝が浸かる山水瀬
舟の渡し賃は 袖に縫った六文銭
罪深き者は 取って置きの江深淵
信念試される激流は、矢の如く速く
波は山頂のように高く
川上より巖石、五体を打ち砕く
死後の世界、死ぬことさえ許されず
耐えて幾度生き返っても、苦難は絶えず
水底に沈めば大蛇が口を開け
水面に浮き上がれば夜叉の弓が待ち受け
川の畔脱衣場、衣服剥ぐ奪衣婆
翁が衣領樹の木の枝にかけて量れば
罪の重さ決める渡り裸一貫
未だこれで序の口、七日七晩

対岸に辿り着きし亡者、
十王の御前に立ち、太鼓判か盥廻し
第五番の閻魔王庁含み、
七日毎にある、七回の業の裁き
水晶の浄玻璃を始め八枚の鏡
法廷で生前の行為に鑑み
檀茶幢、閻魔帳を照らし合わせ
ここで嘘がバレた者は舌をひっこ抜かれ
六道の判決を前に慚愧と懺悔
裁判長の尋問が庭に轟いた
「なぜ、これほどの長い罪状を犯したのか、言いたい事はあるか」
亡者はこう答えた
「言う事はありませぬ、もう来し方からは逃れとうございます」と涙
閻魔羅閣「嘘はなくとも悔い改めておらんとは、焦熱地獄を命ず」
嗚呼、閻魔様様様



庄之助は寺の縁側で
汗まみれで目覚めた
ああ、こんな夢は嫌だ、嫌だ
逆夢であって欲しいものだ
もっと良い夢が見たいと
再び転寝を始めた

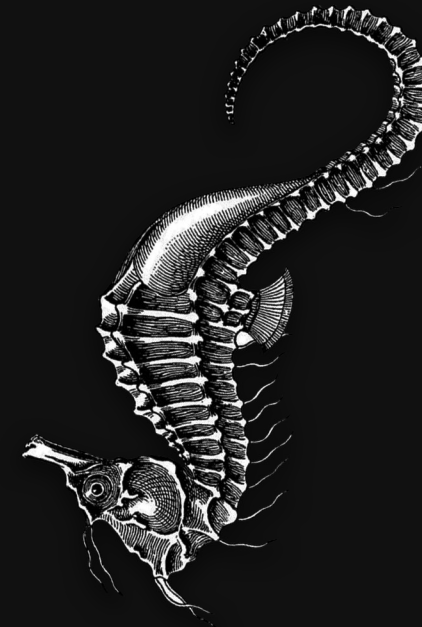


夢の又夢 夢の又夢
正夢 逆夢 夢の又夢
夢の又夢 夢の又夢
この世とあの世の境目
夢の又夢

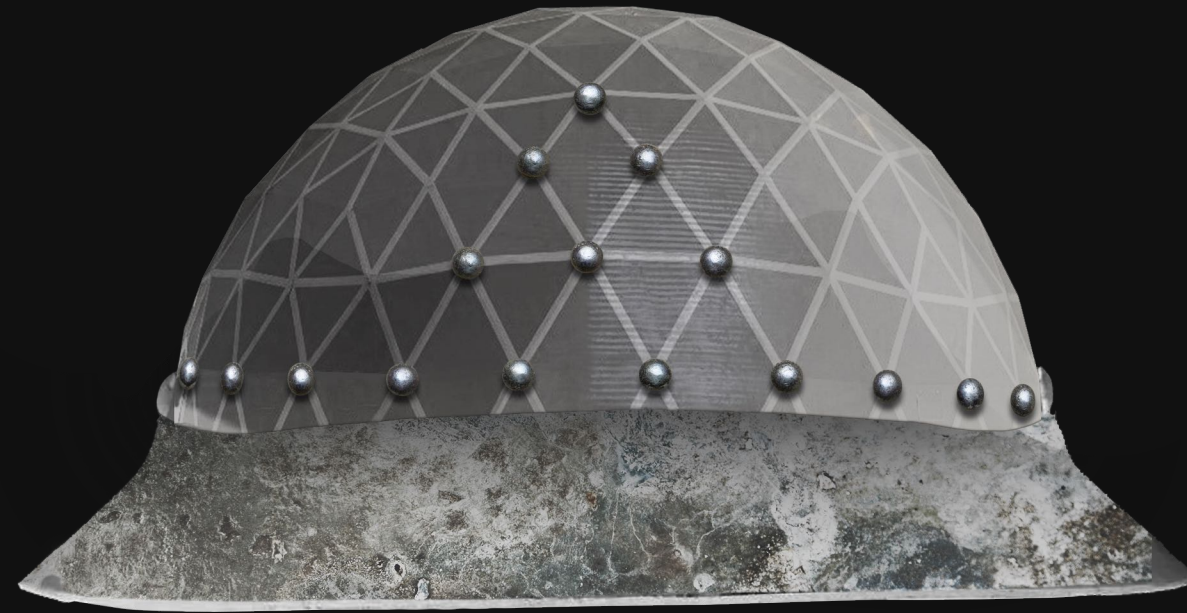
笹舟 浮かべ 忍池
上野で篠笛の音誘う夢
人は籠に車 縦に対、または四つ
屋根の付いた箱に乗って風を真っ二つ
船は空を翔け 異国迄半日以下
手形で取り引きし手の平に光る板
喋る言葉全てが、無形の術なれば
情け報いの世の中若葉から枯葉

夢の島は息をつく間も無く、
想いの募る暇も無く然もなくば埋もれて蹴く
街の光溢れ星空はどこへ
七夕の短冊と笹は川底へ
何を信じれば、救いの手 それとも
時が変われど、己の修羅道
天のお声掛かり、願いを叫ぶきっぱり
夢から覚めようと、お江戸が良いややっぱり

夢の又夢 夢の又夢
正夢 逆夢 夢の又夢
夢の又夢 夢の又夢
この世とあの世の境目
夢の又夢



それからどうしたあれから大地を歩いた
一抹の虚しさと、一縷の望み紡いだ
幼子の思い出親御の添い寝
名残惜しさとして、捨て給う、輪廻転生
是迄殺めた、命の灯火
斬った相手の親の顔、踵の重しに
勘定抜きに腑に落ちる、日に日に、
人生は花火なり打ち上がり散り散り
しかし気づいた、単に道では無く道であると
徳と業を積むよりも、行であると
自惚れに屈し朝夕に神仏に伏し
覚え掠れし、しかし恩は忘れじ
天上天下 天上天下 天上天下
この手と足で稼いで、産まれた縁で
点と線を繋げた、この円と面で
広がった世界は、異次元へ七変化



西向く士
西向く士
二四六九士
西向く士

西向く士
仲間を弔い
二四六九士
西向く士

雨だ雨だ、地べた固めた
頑なに傘さすな、家に籠り心腐すな
触れる扉、鎖帷子
無花果の蕾から花びら
旅は道連れ 凧の波だ
月の満ち引き 筆策の響き
星の標の導き 走る生き字引
余所者が躰かく間に、蓄える自力の
麴と醪、その熱は凄まじき
一旦冷めて改めて温めて食べた
香る甘さの裏にも苦汁を舐めた
味と同時に、古傷の疼きが蘇った
如月、卯月、水無月、長月
聳える断崖ぐらい、地獄からも這い上がる
何回転んでも、このサブライはタダでは起きぬ
磨きに徹し、いつか先人と接したい
折り紙付きの刀研ぐ 霜月の決死隊



Produced by SPIN MASTER A-1
Written and performed by Shing02

Recorded at Lana Lane Studios, Honolulu
Mixed and mastered by Shing02 at Annen Annex
Graphics and layout by Urban Demographics
246911 title tags by Render
©&® Far West Side Records 2019

e22.com/246911

1. Mirage / 蜃気楼
Beat by SPIN MASTER A-1

2. Low High / 狼狽
Beat & scratches by SPIN MASTER A-1
Rap by Shing02

3. Jin / 陣
Beat & scratches by SPIN MASTER A-1
Rap by Shing02
Additional vocals by Mima

4. Kane / 鐘
Beat by SPIN MASTER A-1
Rap by Shing02
Additional vocals by Aoi

5. Tanuki / 狸
Beat & scratches by SPIN MASTER A-1
Rap by Shing02

6. Gensou / 幻想
Beat by SPIN MASTER A-1
Scratches by DJ Packo & SPIN MASTER A-1
Vocal sample by Ajo

7. Shigurui / 死狂い
Beat by SPIN MASTER A-1
Rap by Shing02
Additional vocals by Martial

8. Sanzu / 三途
Beat by SPIN MASTER A-1
Rap by Shing02

9. Matayume / 又夢
Beat & scratches by SPIN MASTER A-1
Rap by Shing02
Additional vocals by Kimblee

10. Next / 来世
Beat by SPIN MASTER A-1
Rap by Shing02

11. Zantestu / 斬鉄
Beat & by SPIN MASTER A-1
Scratches by DJ Packo & SPIN MASTER A-1
Vocal sample by Ajo